



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 竹内洋司／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

消防職員委員会に関する 消防庁対応について

2017年12月、自治労委員長と総務大臣との定例協議があり、その後の事務担当者との意見交換の中で、消防庁が実施する「消防職員委員会の運営状況調査（追加）」の情報を入手した。

追加調査の背景

消防庁は、毎年消防職員委員会の運営状況調査を行い、例年7月にその調査結果を公表している。本年度に限って追加調査が実施される背景には、2018年5月末から開催されるILO（国際労働機関）総会がある。ILO87号条約「集会・結社の自由」に関し、日本の消防職員へ団結権の付与を



求める再三の勧告に対して、消防庁が消防職員委員会制度は十分に機能していると回答するための事前準備であると推測される。

全消協が修正案を提起し、採用

全消協は、この追加調査に関して、より現場の実態に即した、労働者目線の調査となるよう、四役を中心に設問の修正案を検討し、自治労本部の協力を得て消防庁に設問の修正を提案した。その結果、全消協が提案したほぼ全てを採用し、2018年1月に消防庁・救急課長から各都道府県を通じて消防本部に調査を行った。

また、追加調査の修正提案と並行して、幹事に広く意見を求め、現状の消防職員委員会制度の問題点を抽出した。さらに、消防当局が実施する調査と労働者の視点の違いを明らかにするため、全国の現状を把握し、会員の意見を求める必要があると考えた。

緊急実態調査の実施

このことから、2018年2月、緊急協議事項として幹事会の承認を得て、全消協は、消防職員委員



会の緊急実態調査を各単協へ要請した。

緊急実態調査の結果から、意見を提出しても「審議対象外」として委員会のテーブルに載らず門前払いされるケースや、委員会で「実施が適当」と決した事項においても、消防長の処置結果では全てが解決されていない現状など、消防職員委員会は決して充実した運営状況ではないことが見えてきた。

消防庁が実施する消防職員委員会の調査では、委員会制度によっ

て改善されたケースを紹介して「委員会制度の充実と定着」をPRしているが、委員会で解決されていないケースの紹介はない。このことから、日本政府が言う「団結権の代替措置」という消防職員委員会制度は、制度上の不備があるといわざるを得ない状況である。

団結権の回復をめざして

また、4月16日から5日間にわたり、スイス・ジュネーブで開催された「ILO公共緊急サービスにおけるダイアセント・ワークに関するガイドライン会議」では、PSIJCを代表して派遣された全消協の竹内洋司事務局長が、会議の場において、緊急実態調査の集約状況をともに、「消防職員委員会制度は、団結権の代替措置にはあたらぬ」と強く発言した。

全消協は、あくまでも消防職員への団結権の回復を活動の基本としている。緊急実態調査は、実施決定から非常に短期間のうちに各

単協の協力を得て実施できた。この取り組みを経て、全消協会員が一丸となって、消防職員の団結権回復をめざした行動が重要であると考え、消防行政の向上に必須であると提起するとともに、消防職員委員会制度は団結権の代替措置にはならないということを強く求めていく。

なお、「ILO公共緊急サービスにおけるダイアセント・ワークに関するガイドライン会議」の詳細については、次号以降に詳しく報告する予定である。



全消協第1回ユースStep Upセミナー開催!

ユース部が主体となって企画した初の学習会が実現!!



3月9日～10日、東京・主婦会館プラザエフにて、全消協ユース部が企画・主催する35歳以下の会員を対象とした学習会「第1回ユースStep Upセミナー」を開催した。参加した会員40人は、2日間の日程で7講座と懇親会を行い、座学に励みながら親睦の輪を深めた。

村上直樹会長は挨拶の中で「ユース世代を対象とした研修会は全消協として初の試みとなる。セミナーを通して全国から集まった仲間との情報交換や交流を深めていただきたい」と、ユース世代の活躍への期待を述べた。

担当したユース幹事の解説および所感

講座Ⅰ：組織成り立ち・男女共同参画・PSI

鈴木銀河 (東北ブロック幹事)

漠然とした提案ではなく、各職場の現状を共有できるテーマを提示し、情報を交換できるようディスカッション形式にした。設定した時間で終わらないほど討議が白熱し、ユース世代は他の職場の情報を欲していると感じた。

講座Ⅱ：労働安全衛生

伊藤達也 (東海ブロック幹事)

消防職場の次世代を担うユース部によるユース世代に対する本講座で、労働安全衛生について、情報共有、知識向上、そしてその重要性を少しでも伝えられたのではないかと思う。

講座Ⅲ：メンタルヘルス

高木康臣 (関東ブロック幹事)

山田哲也 (近畿ブロック幹事)

メンタルヘルス不調者が増加している昨今、ストレスに関する知識と対応は誰もが知るべきである。各々が考えるきっかけとなり、悩んでいる仲間になることを願っている。(高木)

今回、講座を担当するにあたり、「この健康」を保つことの大切さを痛感し、まずは知ること、知る人を増やすオルグ活動の重要性を感じた。(山田)

講座Ⅳ：LGBT・育ボス

三好好一郎 (四国ブロック幹事)

吉田真也 (三河義義九州ブロック幹事)

受講者の方がしっかりとStep Upできる内容を作るため、視聴覚資料

講座Ⅴ：消防財政

藤原稔文 (中国ブロック幹事)

江部寿 (北海道ブロック幹事)

の調整や内容の精査などを自分たちで考え、受講者目線を進めた。LGBTについては、国内外問わず注目されているが、まだまだ浸透していない事実がある。継続的な活動がより求められると感じた。(三好)

男性が多い消防職場において、育児休暇制度はなかなか馴染みがないと思う。今回の講座を通して、少しでも「育ボス」や男性職員の育児休暇取得について職場全体の理解が深まり、よりよい環境となることを期待している。(吉田)

講座Ⅵ：賃金・労働条件

酒井一成 (北信ブロック幹事)

ユース世代へ「消防財政」の何を伝えるべきか考え、財政における現状とその性質に内容を絞り込み、わかりやすい内容となるよう尽力した。(藤原)

財源の種類と予算が決定するまでの流れや、私たちが仕事の中で使用している車両や資機材等は住民の財産であること、その財源の確保が厳しい現状、限りある財源・財産を大切に使う気持ちと、「マンパワー」と呼ばれる消防力で、いかに最大限の住民サービスが提供できるのかを伝えること意識した。(江部)

ユースStep Upセミナー 受講者所感

近畿ブロック 四条市消防行政研究会 尾崎俊夫



2日間にわたり、セミナー参加させていただきましてありがとうございます。同世代だけで集まることで、話しやすい環境を作ってくださいました。村上市長に感謝しております。

セミナーは、どの単協も直面している問題から新しく知り得ることができた内容まで、これからの協議会活動を行っていく上で必要な知識を養うことができました。とくに賃金・労働条件でのディスカッションにおいて、各単協の現状にこんなにも差があることに驚きを感じております。

私の単協は、4年前に未組織消防本部と広域化し、協議会活動が思うようになれない状態が続いていますが、研修を機に、さらにこれからは頑張っていきたいと強く思ったところです。また、

九州ブロック 垂水市消防職員協議会 大山憲一



懇親会では全国の同世代の仲間と親睦を深められたことで横の繋がりを持つことができ、一番の収穫と思える研修になりました。

2017年9月に垂水市消防職員協議会を結成し、今回、セミナーに参加させていただくことになりました。初めてのことが多く、不安しかない中で参加でしたが、充実したわかりやすい講義で、多くのことを学ぶことができました。また、全国各地の消防職員と交流を持つことができ、良い仲間に出会えたことが一番の収穫だったと感じています。この勉強会で得た知識を所属でフィードバックして、より良い職場環境に変えられるよう、会員みんなで協力していきたいと思います。

東北ブロック 栗原消防職員協議会 阿部貴信

今回、初めて全消協のセミナーに参加しました。初めは参加することに対し、不安な気持ちがありました。セミナーを終えて他の消防本部の方と話をすることで、勤務体制の違いや手当の違いなど情報を得ることができました。また、講座の内容はわかりやすいスライドを利用し、知識不足の私でも理解しやすく、非常に有意義なセミナーでした。



今後も活発な活動を続けるユース部!!

吉田代表に今回のセミナーについて聞いてみました!!

■セミナーについて

ユース世代の会員は、協議会活動の歴史や必要性をきちんと理解できていないのではないか。世代間で異なる協議会に対する認識や知識の差を埋めるにはどうすれば良いか。

この問題に対し、我々ユース部が率先して取り組み、何かをやらねばという思いがありました。

主な取り組みとして、全国各地でユース部会を開催し、地方のユース世代との意見交換の場で、協議会への理解を深めていただく活動をしました。また、過去2回、労働講座の講師としてユース世代の目線で講義を行う経験もさせていただきました。

この活動を通して得た経験や実績と直接またはアンケートなどで集めた多くの若者の声を取り入れ形にしたものが、今回の「第1回ユースStepUpセミナー」です。

参加者を35歳以下に限定したユース部主体の学習会では、知識の底上げと他の消防職場との違いを感じてもら



とともに、1人でも多くの参加者に職場環境改善への「やる気」を持っていただきたい、という気持ちが入められています。

■初の試みであること

全消協幹事会で企画の提起・議論の際、「本当にできるのか」との疑問や「やってみよう」との後押しもあり、「やると決めたからには失敗はできない」との覚悟で臨みました。

内容については、全てを網羅するのではなく、どの部分を一番伝えたいかを常に意識し、スライドの色使いや文章のわかりやすさまで全員で確認しながら作り上げました。

■今後の活動について

協議会活動に対する思いは、各世代によって違いがあると感じます。先輩たちの思いを理解できるようにユース世代は勉強する。そして「自分たちの世代は実際はこうなんですよ



と先輩たちに伝え、先輩たちにも若い世代を理解してもらおう。そういう繋ぎの役割として、世代間のギャップを埋めていく活動を今後も続けたいと考えています。

■おわりに

このセミナーは、現ユース部の思いだけで企画したものではありません。前期・前々期のメンバーの活動と思いの積み重ねで開催できたものです。だからこそ、良いものにならないうえに現ユース部メンバー全員が強く思っています。そして、これで終わりではなく、このセミナーを出発点とし、いかに各プロック・単協へ学んだことを持ち帰ることができかをめざし、ユース部の活動を発展させていきたいと思えます。

女性消防職員が抱える課題等の解決にむけて!!

全消協女性連絡会と総務省消防庁との意見交換!!

3月9日、参議院議員会館にて女性消防職員をめぐる職場の課題について、総務省消防庁と意見交換を行った。

はじめに、江崎孝参議院議員は、「女性消防職員が今おかれている現状を直接生の声で聞いていただき、今後の消防現場の一助にしていきたい」と述べた。続いて、総務省消防庁より女性消防吏員の活躍推進にむけた現在の取り組みについて説明があり、その後、次の課題について意見交換を行った。

■ハラスメントについて

セクハラを受けた女性の多くは採用5年未満、加害者は上司によるものも多く、パワハラとセクハラが同時に起こっていることをはじめ、体の接触によるものなどの事例をあげた。そして、勤務シフトに女性職員が1人しかいなかったり、相談先がないために我慢している女性職員が多いことを伝え、相談窓口の紹介やハラスメントに対してのモラル向上にむけ、消防庁に対し取り組みの必要性を訴えた。

環境となり、取得するのが当たり前の雰囲気になったところも多く出てきた。しかし依然として、育休に入る際に「戻る場所はない」などの発言で退職まで追い込まれた職員もいる現状があることをあげた。今後、女性消防職員の採用増加により、妊娠する女性吏員の年代が重なる可能性があることから、休業中の補充人員の確保などの対策案を提示すること、また女性を採用している消防本部の先行事例の実態を多く発信し続けることを要望した。また、男性にも負担がかかってくる課題であることから、引き続き、女性の結婚、妊娠、出産をめぐる課題について継続して検討するよう要望した。

■職域の制限について

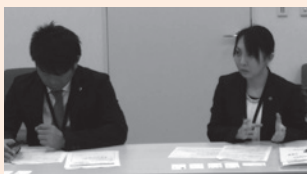
消防学校派遣や大型自動車運転免許などの各種資格取得が、女性であることによって順番を後に回されたり、派遣させてもらえないことなどの事例をあげた。しかし、平成27年に発出された通知文を受け、消防学校派遣や各種資格取得が増加し、政令指定都市などでは以前は現場に出たことのない女性もいたことから、この通知によって女性消防職員の職域が拡大し、大きな一歩であると感じた。

■その他

女性活躍推進をめぐる各消防本部の進捗状況の公開について、各消防本部へ特定事業主行動計画を策定する旨が周知されたが、まだ策定に至っていない消防本部も多く見受けられるため、意識改革のためにも進捗状況の調査と公開について要望した。また、LGBTをめぐって、消防職場でも実際対応に苦慮する状況があることから、対策等についての検討をあわせて要望した。

■結婚、妊娠、出産など

通知文の発出により、育休を取得しやすい



協議会活動を担うリーダーを育成!

第9回リーダーセミナー

組織強化・拡大の新たなステージにむけて

3月9日〜10日、東京・自治労会館で、全消協第9回リーダーセミナーを開催した。全国より56人の会員が参加し、組織を担うリーダーとして必要な知識と課題に取り組み姿勢を学んだ。

はじめに、村上直樹会長より「全消協の組織強化・拡大にむけるような取り組みが必要かなどをみんなで検討し、しっかりと学習して今後の活動に活かしていただきたい」と主催者挨拶を述べた。次に、竹内洋司事務局長が「組織強化・拡大の新たなステージにむけて」と題した本部提起を行い、講座へ進んだ。



1日目 組織強化

佐藤昭徳九州ブロック幹事が、全国消防職員協議会結成のきっかけや現在の組織強化の現状と課題、組織強化がその後の組織拡大へつ



2日目 組織拡大

島武志特別幹事より、沖縄県を中心に、未組織消防組織へのオルグから消防職員協議会結成までの取り組みについて、複数の事例を紹介した。また、結成後に休業した単協の経緯について解説した後、県消協や他の単協による継続的なフォローを行う重要性について講義した。その後、各グループ内で組織拡大の課題や実際の取り組み状況について、事前資料を活用してグループ討論・発表を行い、進行を務めた事務局から、受講者に対し助言した。

ながることの重要性について説明した。その後、各グループ内で組織強化の課題など事前資料を使用してグループ討論を行い、さまざまな課題について共有した。その後、斉藤英之副会長が、「皆さんが抱えている問題の根幹は昔と一緒。ここで議論した問題を共有するとともに、単協に持ち帰って考えることが大切。一步一步、次のステップへ進んでいかなければならない」と1日目の講座を総括した。



最新的全消協活動を配信中です

ぜひ、アクセスや「いいね!」をお願いします。

全消協
ホームページ

全消協
公式Facebook

ユース部
公式Facebook

女性連絡会
公式Facebook



今後の予定

全消協第46回全国消防職員研究集会 2018年6月8日(金)~9日(土)

全消協女性連絡会第1回女性交流会 2018年6月9日(土)

全消協ニュース105号の「半鐘のこだま」で一部記載に誤りがありました。記載の中で、「労働基準法に、特別休暇は暦日で付与」と記載しておりましたが、正しくは、「条例で特別休暇は1日単位で付与され、この場合の1日の取り扱いは暦日として取り扱われます」となります。改めてお詫び申し上げます。

半鐘のこだま

2月に開催された冬季オリンピック平昌大会で、日本選手団のメダルラッシュ(史上最多13個)には、連日大いに興奮しました。惜しくもメダルに届かなかった選手もいましたが、自分の限界に挑む姿に勇気と感動をもらいました。また、スピードスケート小平奈緒選手が5000m決勝で見た他の選手への配慮、W杯連勝中で絶対的エースと言われた中で勝ちきる力、オランダ留学で培われた強い精神力、レジェンド葛西紀明選手の、結果が出なくてもあきらめない、折れない心は、同じ日本人として誇りに思いました。さて、全消協は組織強化・拡大に力を入れています。協議会を辞めちゃう職員、協議会活動に無関心な会

員など活動が思うようにいかず、苦慮している役員(会員)も多くいると思います。たまには落ち込む時もあり、くじけそうになることもあるかと思いますが、「自分達の職場を良くしたい!」「職員が働きやすい職場を作ることが住民サービスに繋がるんだ!」という原点に戻り、あきらめずに粘り強く活動してほしいものです。最近「よく感銘を受けた言葉に出会いました。『未来は未来にあるのではない。いま、この瞬間の延長線上にあるのであり、いまを動かさなければ未来は永遠に動かない』です。小平選手、葛西選手のようにがんばらず、あきらめず同志と共に、いまの協議会活動を頑張っていきたい」と改めて思いました。

返町直也(北信ブロック幹事)